

地域国際化ステップアップセミナー in 仙台

(一財)自治体国際化協会多文化共生部

クレア多文化共生部は、2014年11月22日、宮城県仙台市において(公財)仙台国際交流協会(SIRA)と共催で「地域国際化ステップアップセミナー in 仙台～地球市民育成公開講座～『やさしい日本語』について外国人と日本人で考えよう」を開催しました。

今回は、このセミナーに参加していただいた留学生2人からの報告を紹介します。

■ ステップアップセミナー 『『やさしい日本語』について 外国人と日本人で考えよう』 に参加して

せんだい留学生交流委員 于 楽 (中国)

■ セミナー参加のきっかけ

やさしい日本語で情報を提供する必要性については、今まさに見直されようとしています。私は、SIRAのせんだい留学生交流委員として、仙台在住の外国人市民を支援するための活動をしています。これまでの活動のなかで、外国人市民に向けて情報を発信する際に、どのような日本語を使えば最も伝わるかを考え、首を傾げた経験は何回もありました。そのため、今回のセミナーへの参加を熱望していました。

■ セミナーの内容

(1) やさしい日本語について考えるワークショップ

ワークショップでは、保護者向けの小学校のお知らせをやさしい日本語に「翻訳」しました。不必要で難解な情報の削除や、言い方の変換、あるいは文字と絵との併用など、さまざまな方法を試みました。特に、外国人の参加者は、日本で暮らしてきた経験を活かして、いろいろ提案し、大活躍しました。私が気付いたことは、やさしい日本語での「翻訳」は単純に簡単な日本語への書き替えではなく、文化の

違いに気づきながら、その隔たりを埋めようとする努力が大事だということです。講師の方がおっしゃった通り、「やさしい日本語」は内容がわかりやすい「易しい日本語」であると同時に、それを利用する人の根元の文化などをいろいろ配慮に入れて作り出された「優しい日本語」でもあるべきです。

(2) 自治体やNPOでの活用事例の紹介

はじめに、横浜市市民局広報課の飯村亮祐氏から、「やさしい日本語」の基準を作成した経験を発表していただきました。私自身も実感しているように、公的機関の文書などは、書き言葉が多く非常に難しいが、日本で生活していく上では避けて通れないものです。そこで、その難しい文書などがやさしい日本語に「翻訳」されることを、日本在住の外国人たちが切実に必要としています。ただし、基準がないまま行われると、統一されていないまちまちな「訳語」が生じてくるわけで、かえって不親切なものになります。横浜市はその基準を一から作り用例集も編集しており、ウェブ上で公開しています。それが多くのところで活用されていけば、やさしい日本語が広まり、日本は次第に日本語の初心者にとっても住みやすいいわば「優しい」国になっていくでしょう。さらに、この基準は外国人だけでなく、福祉や教育の分野において日本人の高齢者や児童向けの支援にも活用されることが期待できます。

次に、「外国人の子ども・サポートの会」の田所希衣子氏から、日本の学校に編入した外国人の児童生徒のための「リライト教材・音読譜」について紹介していただきました。一般的に言う「やさしい日本語」のように、主にわかりやすく効率的な情報伝達を目指しているものではなく、学校での学習内容をやさしい日本語の表現に書き替えることで、外国人の生徒にもそれを無理なく身につけさせるための

ものだそうです。特定の人を対象に、やさしい日本語を発展的に応用するとても有意義な事例でしょう。

■セミナーに参加して感じたこと

以上のように今回のセミナーは内容が非常に充実しており、現在のやさしい日本語の活用状況が紹介され、また今後どのように応用すべきかについてもいろいろ考えさせてくれました。私が一番感じたのは、やさしい日本語を単に「言語問題」としてではなく、異文化共生の文脈の中において捉えることの必要性であり、そうすればこそ、やさしい日本語が広い範囲でその役割を果たすのでしょうか。また、今回のセミナーでは、さまざまな形で外国人の支援や異文化交流の促進に携わっている方々と知り合うことができました。今後とも、こうしたいろいろな理解と協力の中で、支援活動を続けていきたいと思っています。

日本人と外国人が作った やさしい日本語生活環境

せんだい留学生交流委員

ウ・ジェナ・ウェン・ジュ (Jenna W. J. Wu)
(アメリカ)

■やさしい日本語の必要性

杜の都、仙台市にはたくさんの外国人留学生だけでなく、ほかの外国人市民も数多くいます。その仙台に住む外国人市民のために、私たち市民は何ができるかを、外国人と日本人が共に考えることが大切だと思います。

私は2014年度から仙台国際交流協会の留学生交流委員として活動しています。今回は留学生交流委員、あるいは外国人市民として「ステップアップセミナー in 仙台」に参加しました。このセミナーのメインテーマは「やさしい日本語」と「リライト教材」で、それぞれの目的と対象者は少し違いますが、出発点は同じで、外国人市民の皆さんに少しでも力になりたいということです。

■やさしい日本語の活用

まず、なぜやさしい日本語が必要なのでしょう？やさしい日本語の「やさしい」は、「易しい」と「優しい」二つの言葉の意味を含むため、ひらがなを用いています。日本語には難しい表現や曖昧な言葉遣いがあり、たくさん日本語を勉強しても、分かりづ

らいところもかなりあります。外国人だけではなく、日本人の中でも、書類など見ると考えなければいけない場合があるため、外国人と日本人にやさしい言葉を使って、生活の質を上げる必要があります。実際に、私が日本に来たとき、国際センターで情報発信のパンフレットがやさしい日本語で書かれていて、すごく分かりやすく、助かりました。このように、日常生活で、トラブルが起きたときに、やさしい日本語は日本人だけではなく、外国人市民にも重要なメッセージを伝えることができます。

次に、リライト教材というのは、外国人の子どもたちのために日本語の教科書を分かりやすく説明することです。教育の空白期間を短くして、日本人の生徒と同じように勉強することを可能にします。私も、家族で移住したため、小さい頃、違う言語で勉強していました。そのとき、普通の教科書を使うことができなかつたため、教育の空白期間が、約2年間ありました。当時は、勉強もあまりできなくて、理解できることもなく、悲しい気持ちになりました。仙台には、「外国人の子ども・サポートの会」があり、このグループは、外国人児童生徒の教科学習のサポートと毎月の勉強会を開催しています。このように、外国人の子どもたちは小さいときから、生活に必要な日本語を身につけるようにできます。

■やさしい日本語を通して学んだこと

やさしい日本語は外国人が日本で暮らしやすくなるための第一歩だと思います。実際に、留学生交流委員の国際交流協会での活動には外国人への情報発信のため、やさしい日本語を使ったラジオ放送があります。このように、さまざまな活動を通じて、やさしい日本語やリライト教材が役に立つと強く感じました。仙台には、このような日本人による、外国人のための「ステップアップセミナー」があり、外国人にとって「優しいまち」だと思います。



書き替えの様子



セミナーの様子